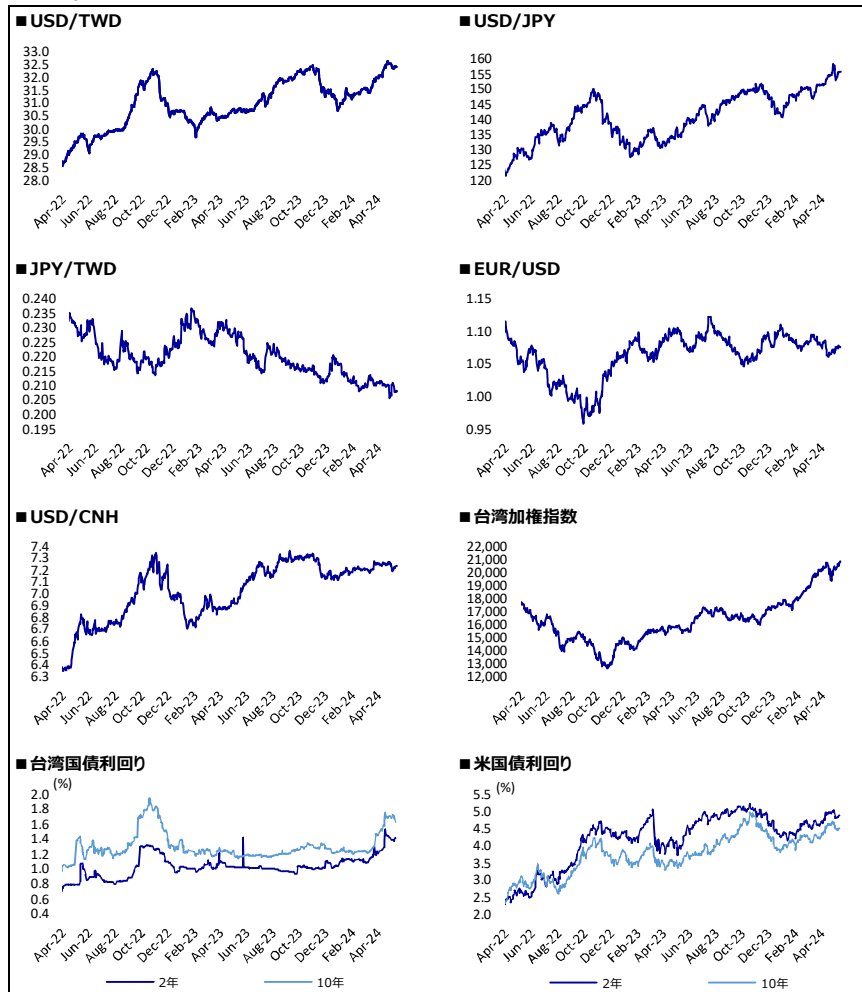


市場動向



先週の市場動向

■ USD/TWD
先週のドル/台湾ドルは上昇。週初5/6は32.330でオープン後、前週末に発表された米4月雇用統計が市場予想を下回る結果となっていたことを受けて、ドル売りが優勢な展開となり一時32.280まで下落。その後、海外投資審送金や輸入業者によるドル買いが見られ、32.30台後半まで上昇した。5/7は、上昇を続けるドル円の影響や、外資による海外資金送金が見られていたことを受けて、台湾ドル売りが優勢な展開となり32.40近辺まで上昇。5/8は、前日引け後に発表された台湾4月CPIが市場予想を下回る結果となったことを受けて台湾ドル売りが優勢な展開となり32.40台前半で底堅く推移。5/9は、台湾株の下落を受けて外国人投資家による台湾株売りが見られ、32.40台後半まで上昇。5/10は、翌週中に米インフレ指標の発表を控え、ドル買いが進み一時32.500まで上昇。その後は外国人投資家による台湾株買いや、輸出業者による外貨売りが見られ、32.40代前半まで下落した。最終的には前週比0.1%ドル高台湾ドル安の32.413で先週の取引を終了。週間の外国人投資家の株式買い越し額は268.6億台湾ドル。

■ USD/JPY
先週のドル/円は上昇。週初5/6は153.10でオープン後、日本祝日であり市場参加者も少ない中、急速な円高の巻き戻して153円台後半まで上昇。5/7は、岸田首相と植田日銀総裁の意見交換後に円安への警戒感が示されたことでわずかに円が買い戻されたが、その後すぐさま円が売られなおし154円台半ばまで上昇。5/8は、アトランタ連銀の第2四半期GDP予測の上方修正や、ボストン連銀総裁コリンズからの「インフレ鈍化の進展が足踏みしている」との発言を受け、ドル買いが進み155円台後半まで上昇。5/9は、米国の年内利下げ期待が剥落する中、米金利が上昇していたことを背景に、ドル買いが進み一時155.95まで上昇。その後は、発表された米雇用指標が弱い結果となっていたことを受けてドルが売り戻され155円台半ばで推移。5/10は、材料に乏しい中、翌週中に米インフレ指標の発表を控える中、利下げ期待の剥落への警戒感からドル買いが進み155円台後半まで上昇。最終的には前週比1.8%ドル高円安の155.79で先週の取引を終了。

今週の見通し

■ USD/TWD 予想レンジ：32.250-32.550
今週は揉み合いの推移を見込む。米金利は高止まりする一方、台湾株投資資金流入は見られる状況となっており、売り買い交錯となりやすいであろう。

■ USD/JPY 予想レンジ：154.00-158.00
今週は底堅い推移を見込む。日銀による金融引き締め幅は米国対比極めて小さいとの見立てが浸透する中、円売り圧力は残存しやすいであろう。

今週の予定

5/6 (MON)	
5/7 (TUE)	日4月企業物価指数
5/8 (WED)	米4月CPI、米4月小売売上高
5/9 (THU)	日第1四半期GDP、米4月新規住宅着工件数、米4月輸入物価
5/10 (FRI)	

(Source) Thomson Reuters, Mizuho Bank

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。当資料に記載された内容は、事前連絡なしに変更されることがあります。投資に関する最終決定は、お客さまご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず、無断で引用、複製することを禁じます。